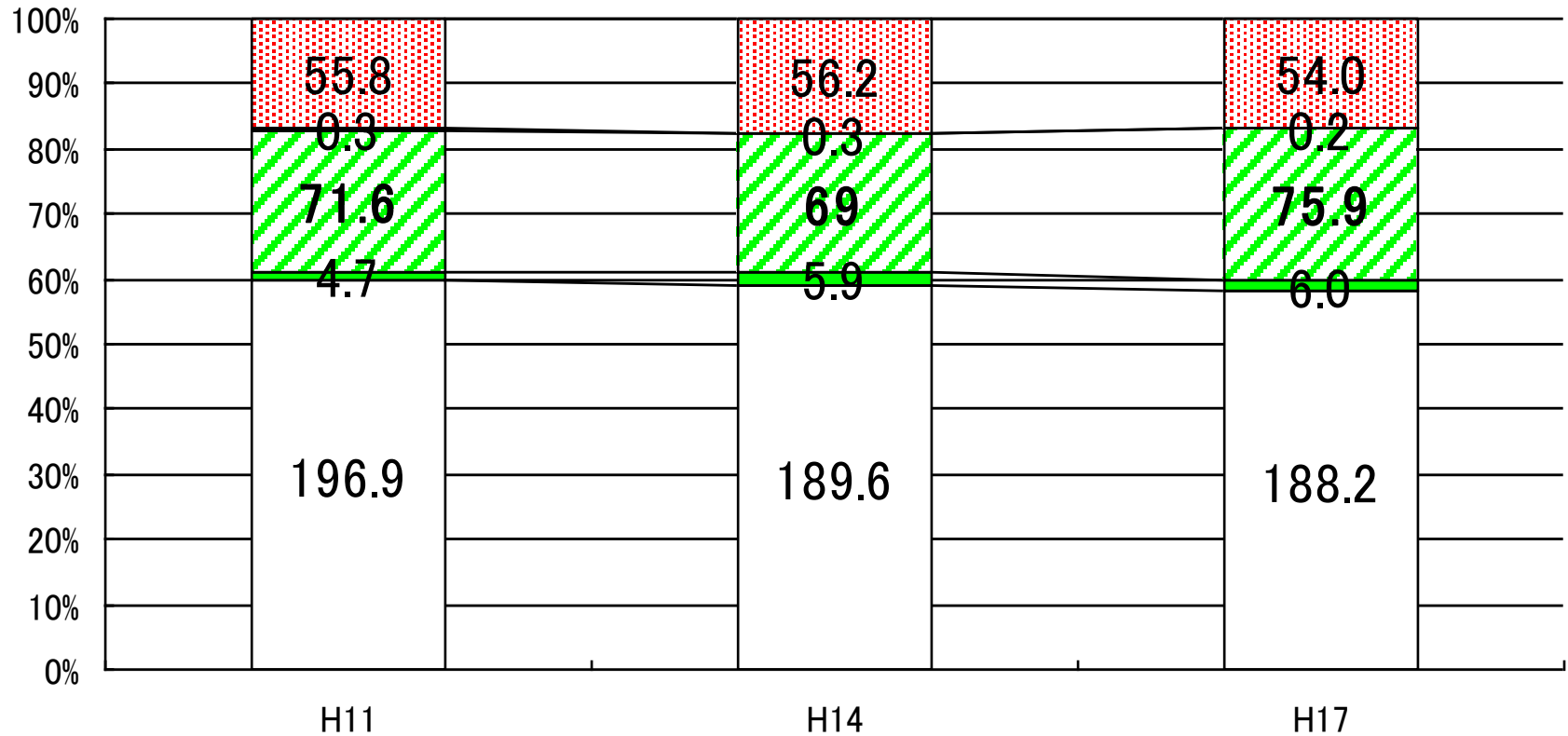


精神病床入院患者の状況

※グラフ中の数字は入院患者数（千人）



- 生命の危険は少ないが入院治療、手術を要する
- 生命の危険がある
- ▨ 受け入れ条件が整えば退院可能
- 検査入院
- ▤ その他

受け入れ条件が整えば退院可能な者の入院期間別・年齢／疾患別の状況(精神病床)

【統合失調症】

(単位:千人)

	合計	1年未満	1年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上
統合失調症総数	195.4	44.8 (22.9%)	49.4 (25.3%)	31.1 (15.9%)	70.1 (35.9%)
55歳未満	75.0 (38.4%)	25.1 (33.5%)	20.0 (26.7%)	11.8 (15.7%)	18.2 (24.3%)
55歳以上	120.4 (61.6%)	19.8 (16.4%)	29.4 (24.4%)	19.3 (16.0%)	51.9 (43.1%)
65歳以上 (再掲)	58.6 (30.0%)	9.7 (16.6%)	14.8 (25.3%)	9.2 (15.7%)	24.9 (42.5%)
受け入れ条件が整えば 退院可能な者(統合失調症)	43.7	10.4 (23.7%)	11.8 (27.1%)	6.9 (15.8%)	14.6 (33.4%)
55歳未満	16.8 (38.5%)	5.8 (34.5%)	4.9 (29.2%)	2.5 (14.9%)	3.7 (22.0%)
55歳以上	26.9 (61.5%)	4.6 (17.1%)	6.9 (25.7%)	4.4 (16.4%)	11.0 (40.9%)
65歳以上 (再掲)	13.4 (30.7%)	2.3 (17.2%)	3.6 (26.9%)	2.0 (14.9%)	5.5 (41.0%)


(注)入院期間不詳及び年齢不詳は除く。

各年齢区分の入院期間毎の数値の下にある比率は、各年齢区分の合計数に対する割合

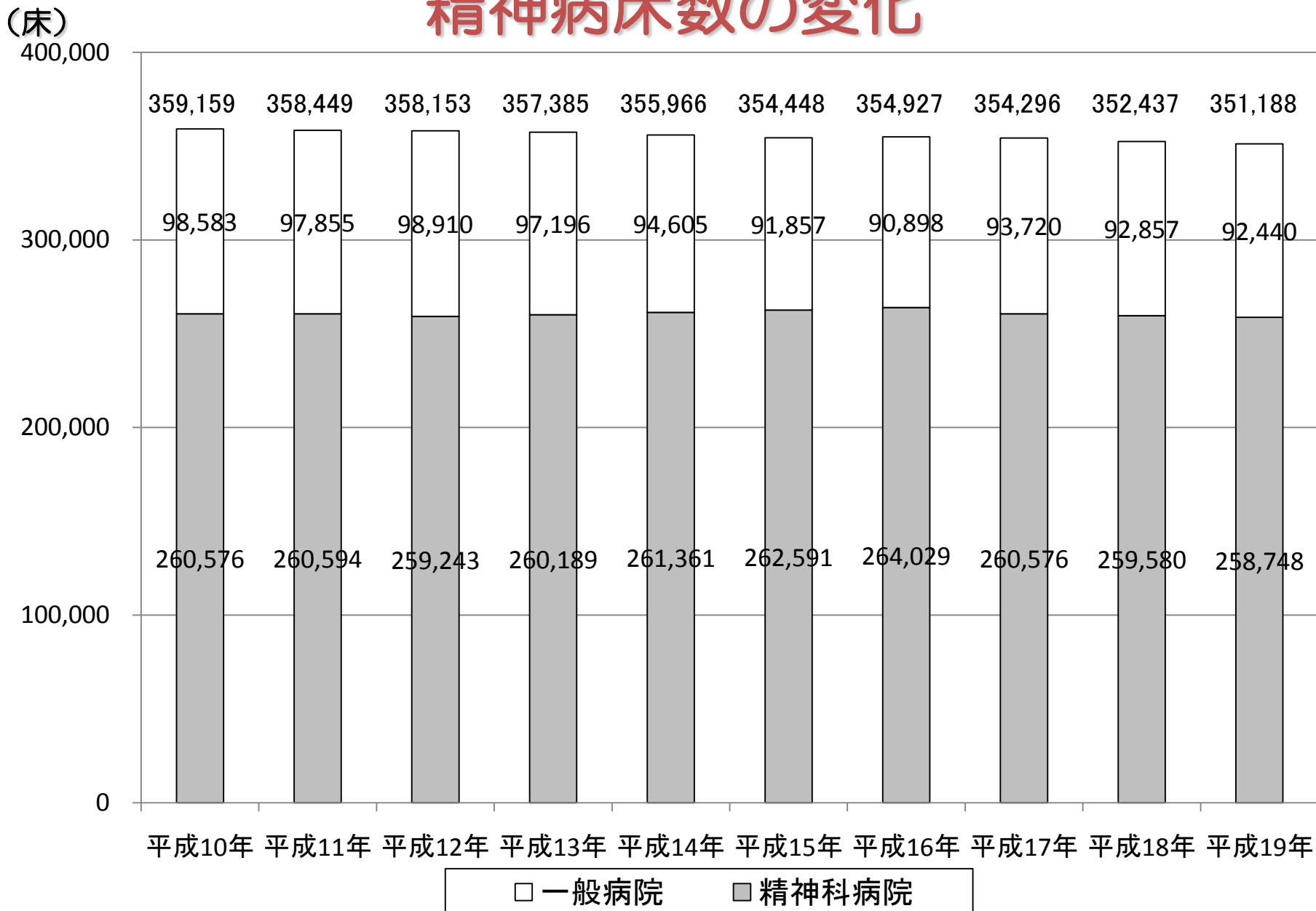
資料:平成17年患者調査の特別集計より、精神・障害保健課にて作成

「受入条件が整えば退院可能な精神障害者7.6万人」について

- 「受入条件が整えば退院可能な者7.6万人(改革ビジョンでは約7万人)」は、患者調査のデータに基づいているが、このデータは以下のような特徴を有している。
 - ・ 入院患者については、各調査年(3年に1回)の10月のある特定の1日に入院している患者の状態を調査していること
 - ・ 「受入条件」について詳細な定義がなく、「受入条件」の考え方や「退院可能」の判断が回答者の主観に依拠すること
 - ※ 調査票は全病院共通となっており、精神科固有の調査項目を掲げることには制約がある。
 - ※ 病床利用状況調査と比較すると、「受入条件が整えば」という前提には、居住の場等の支援だけでなく、将来の病状の改善もあることが示唆されている。
- このような特徴から、「7.6万人」を政策の実施により「解消を図る」目標値とすることには、以下のような課題がある。
 - ・ 入院医療の急性期への重点化や精神医療の質の向上により、退院のハードルが下がれば下がるほど、かえってこの数値は大きくなることが予想されること
 - ・ 「受入条件が整えば退院可能な者」は、いずれの調査時点でも存在しており、その数値が統計上ゼロとなることは期待できないこと
 - ・ 患者調査は3年に1回の実施であり、その結果の公表にも調査時点から1年以上要することから、施策の効果や達成状況を適時に把握することは困難であること

- 
- 今後の精神保健福祉改革における具体的目標値については、客観性が担保され、かつ、施策の効果を示す新たな指標を用いるとともに、その定期的把握を行うこととすべきではないか。

精神病床数の変化



資料：医療施設調査(毎年10月1日時点) 59